



古道・かも道と 加茂谷の現状

今年、四国遍路は開創1200年を迎え、活気づいている。私たちの住む加茂谷地区にも、弘法大師ゆかりの古道「かも道」が

あり、多くの人が足を運んでいる。

かも道は、四国最古の遍路道といわれ、道沿いには南北朝時代の丁石や三十三観音菩薩像を祭った石室があり、歩く人は手に触ることもできる。

また、高さ約2メートル50センチもの「にじり石」は、一宿寺から太龍寺の方角へ、今も上へとにじりながら移動しているといわれる。弘法大師拳石は、何トンもある石が転がってきた時、弘法大師が左手一発で止めたといわれ、実際に左手が石にめりこんだ跡



吉井町
片山 要さん

が残っている。これらの地域伝説も、見る人に興を添えている。くわしく知りたい方は平成24年の広報あなん11月号で特集しているので、見ることがができる。

さらに、加茂谷地区の知られざる宝物、カタツムリの新種であるアナナムシオイガイが水井地区で見えられたことも、話題を集めている。

8月には、東京の武蔵野大学の学生約100人による農業体験ボラン

ティアが予定されていたが、台風11号の被害が大きく、一度は中止になりかけた。

しかし、学生さんたちの強い希望で災害ボランティアとして協力していただくことになり、地元住民と若者の心温まる交流が始まった。学生さんたちには心からのお礼を申し上げたい。これらのことが、過疎地域である加茂谷の新しい出発点となることを願っている。

今回は、橘町の児玉ミヤエさんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市春季短歌大会選

入選

川口 節子
雨の中どつと開きし木蓮の風にのり来る白きさざめき

森 歌子

柔らかな春陽に花壇の土匂い温もり持ちつつチューリップ咲く

宮本久美子

春の風桜開花もまぢかなり消費増税ドアこじあける

吉形 和恵

帰省子の儀式となりし柱傷止まりし背丈今年も計る

井坂 季子

亡き夫はチャーミングな人だった草引く吾に「奥さんコーヒー」

湯浅佐智子

ピチピチの白魚瞬時口に入れ春の躍動舌に転ばす

程野 茂

わが足に合わせし草履二足編み片道六里の遠足にゆく

俳句

阿南市俳句連合会選

鎌矢美代女

秋暑し好みの服の色褪せて

貝殻で砂に書く文字雲の峰

阿部ますみ

木下闇苔むす墓や高野山

藤本 治平

山清水だれにも遇わぬ木の根道

喜来富士子

ランタンをみやげに貫い虫送り

富永 恵女

白木槿ブロック塀の斑苔

大平 夏子

方丈の軒先に蝉生まれたて

宮崎三千代

山門も樹下も涼しき古刹かな

田中 栄子

変らざるひと日始まる蝉しぐれ

市瀬 和子

百姓市西瓜の並ぶ荒筵

小谷 史井

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

満腹と箸は置かず手が伸びる

岡本 福笑

高軒これぞ我が家のシンフォニー

西田 修身

ちぐはぐに見える衣装で若返る

佐藤つたえ

気楽です我が家はどこも自由席

臣守 愛香

おっさんも心美人にほだされる

滝川 太郎